

三菱UFJフィナンシャル・グループ  
株主の皆さまへ

第4期中間期(平成20年4月1日～平成20年9月30日)



Quality for You 

MUFG

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
私から、平成二十年度中間期の業績およびグループの現況などをご説明いたします。

### 平成二十年度中間期の業績

平成二十年度中間期の連結中間純利益は、前中間期比約千六百億円減少し、九百二十億円となりました。これは、世界的な金融危機の深刻化による内外金融市場の混乱に伴い、運用商品販売収益やデリバティブ販売収益、市場関連収益が減少したことなどが主な要因です。また、お取引先企業の業績悪化に伴う与信関係費用の増加や、株式相場の下落に伴う一部保有株式の減損発生も減益の要因となりました。

不良債権比率は、平成十九年度末比微増の1.28%となりました。自己資本比率は10.55%となり、平成十九年度末比では、若干低下しましたが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

### グループ発足三周年

本年十月に、MUFJグループは、発足から三周

年を迎えました。この三年間で、銀行、信託、証券、カード、リースをはじめ、消費者金融、資産運用など主要金融分野でトップクラスの実績を誇る、本格的な総合金融グループとしての態勢づくりを着実に進めることができました。

また、新システムへの移行や内部管理態勢の充実など基礎固めにも注力してまいりました。皆さまのご理解・ご協力も賜り、傘下の三菱東京UFJ銀行では、この十二月で、いよいよ全店が新システムに移行する見込みです。

### 新たなステージへ

新システムへの移行完了を契機に、合理化効果を本格的に実現するとともに、より質の高い商品やサービスをお客さまにご提供してまいります。

また、グループ総合力を一段と強化し、世界規模での成長戦略を展開することで、株主の皆さまのご

期待にお応えする所存です。米国銀行持株会社ユニオンバンク・コーポレーションの完全子会社化やモルガン・スタンレーとの戦略的資本提携などは、その布石となるものです。

### 資本の増強

米国発の金融危機は、海外の経済や金融資本市場のみならず、わが国の実体経済にもその影響が及んできており、MUFJグループを取り巻く環境は、引き続き予断を許さない状況が続きます。こうした

なか、MUFJは、平成二十年十月、資本増強の実施を発表いたしました。これは、財務基盤の一層の安定化を図るとともに、このタイミングをとらえ、さらなる企業成長を実現するためのものです。

今後とも、企業価値向上に向けて役員一同、力を合わせて邁進してまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、ますますご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



平成二十年十二月

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ  
取締役社長

西野 信雄

# 決算のポイント

- 連結中間純利益は、連結粗利益の減少や与信関係費用の増加、保有株式の減損の発生を主因に、前年同期比1,646億円減少の920億円
- 不良債権比率は、平成19年度末比微増の1.28%。連結自己資本比率は、10.55%となり、引き続き健全な財務基盤を維持
- サブプライム関連商品を含む証券化商品などへの投資に伴う損失は約410億円

## 〈損益の状況〉

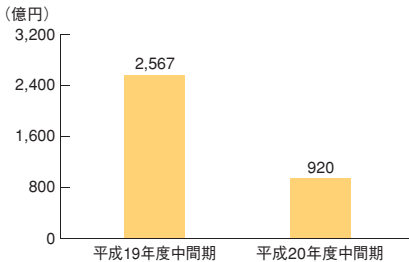
連結粗利益は、世界的な金融市場の混乱の影響などから、運用商品やデリバティブ販売収益が減少し、前年同期比1,003億円減少の1兆6,965億円となりました。

営業費は、システム統合関連の経費等を主因に前年同期比112億円増加し、1兆727億円となりました。その結果、連結業務純益は前年同期比1,116億円減少し6,238億円となりました。

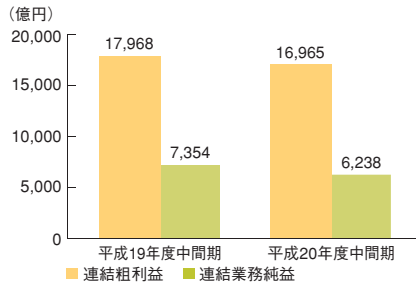
与信関係費用は、内外の景気減速・企業業績の悪化を反映し、前年同期比674億円増加の3,349億円となりました。また、株式等関係損益は、株価下落に伴う1,452億円の減損計上を主因に、前年同期比1,297億円減少し752億円の損失となりました。

以上の結果、連結中間純利益は、前年同期比1,646億円減少の920億円となりました。

### 連結中間純利益

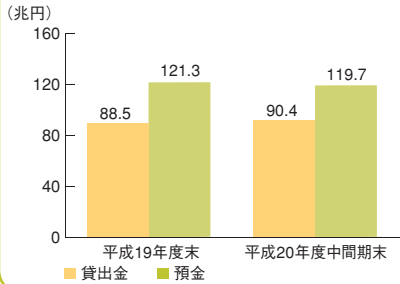


### 連結粗利益・連結業務純益



(注)業績説明に使用している計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。従って、表中のある項目の計数と他の項目を加減計算した結果とが一致しないことや、説明文中の増減数値とグラフ・表中の計数を加減計算した結果とが一致しないことがあります。

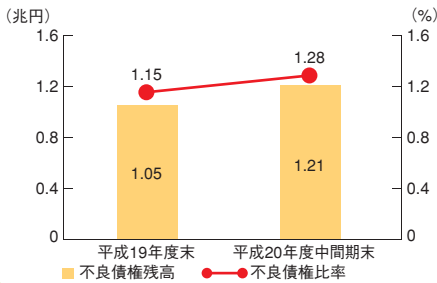
### 貸出金・預金



### 〈貸出金・預金の状況〉

貸出金は、海外貸出の増加を主因に、平成19年度末比1.9兆円増加し、90.4兆円となりました。預金は、国内法人預金や海外店預金の減少が、国内個人預金の増加を上回り、平成19年度末比1.5兆円減少の119.7兆円となりました。

### 不良債権残高・比率

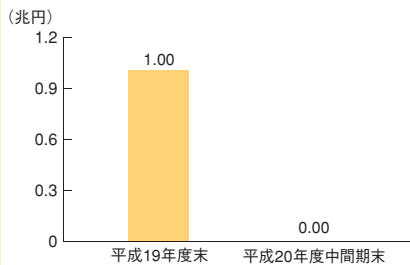


### 〈不良債権残高・比率の状況〉

不良債権残高\*は、景気減速・企業業績悪化に伴うお取引先企業の格付低下などにより、平成19年度末比0.15兆円増加の1.21兆円となりました。不良債権比率\*も、平成19年度末比0.13ポイント上昇の1.28%となりました。

\* 三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の単体合算

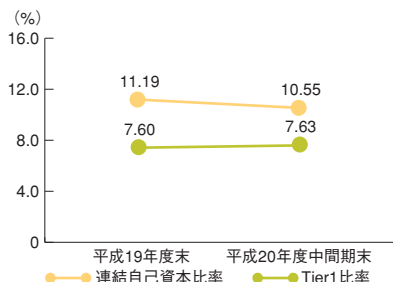
### 有価証券の含み損益



### 〈有価証券含み損益の状況〉

株式市場の急落を受け、国内株式の含み益が減少するとともに、証券化商品などの含み損が拡大した結果、有価証券の含み損益合計（その他有価証券評価差額）は、平成19年度末比約1兆円減少し、ほぼゼロとなりました。

### 連結自己資本比率



### 〈連結自己資本比率の状況〉

連結自己資本比率は、海外貸出等の増加によるリスクアセットの増加や有価証券含み益の減少等により、平成19年度末比0.64ポイント低下し10.55%となりました。Tier1比率は0.02ポイント改善し7.63%となりました。

## 証券化商品等への投資状況

**Q.** 米国低所得者向け不動産貸出(サブプライムローン)関連商品をはじめとする証券化商品等への投資状況や損益への影響額について教えてください。

**A.** 平成20年9月末の証券化商品等への投資残高は、平成19年度末比2,010億円減少の約3.12兆円となりました。減少は主に売却・償還によるもので、原通貨ベースの残高も減少しています。評価損は、合計で5,010億円となり、平成19年度末比1,830億円増加しました。

平成20年度中間期の損益は、住宅ローン証券化商品の売却損を中心に、約410億円の損失となりました。

なお、証券化商品等の投資残高の81%はトリプルA格が占めるなど、引き続き質の高いポートフォリオを維持しています。

**Q.** 米連邦抵当金庫(ファニーメイ)や米連邦住宅貸付抵当公社(フレディマック)等の米国機関が発行する債券や株式の保有状況を教えてください。

**A.** 当社では、米連邦抵当金庫(ファニーメイ)、米連邦住宅貸付抵当公社(フレディマック)、米政府抵当金庫(ジニーメイ)が組成・保証する住宅ローン証券化商品(一般に「モーゲージ債」といわれています)を外貨資金運用の一環として保有しています。

これらモーゲージ債の平成20年9月末時点の保有残高は合計で2.8兆円、評価損は330億円となっています。そのほか、上記3機関および米連邦住宅貸付銀行(フェデラルホームローンバンク)が自ら発行する債券も1,170億円保有しています。

これら機関は設立の経緯等から政府支援機関(GSE: Government Sponsored Enterprises)と呼ばれていますが、米政府からの強い支援の姿勢も明確にされており、これら証券の安全性は高いものと考えています。

# 平成20年度中間期の業績について

(単位：億円)

損益の状況(連結)	平成19年度中間期	平成20年度中間期
連結粗利益(信託勘定償却前)	17,968	16,965
うち資金利益	9,667	9,705
うち役務取引等利益	5,471	5,050
営業費	10,614	10,727
連結業務純益 (一般貸倒引当金繰入・信託勘定償却前)	7,354	6,238
臨時損益(△は費用)	△ 2,359	△ 4,466
うち与信関係費用	△ 2,655	△ 3,459
うち株式等関係損益	544	△ 752
経常利益	4,975	1,881
特別損益(△は損失)	△ 478	6
うち償却債権取立益	203	143
うち子会社株式売却益	-	328
うちシステム統合に係る費用	-	△ 471
うち減損損失	△ 114	△ 48
うち構造改革損失引当金繰入額	△ 596	△ 1
法人税等+法人税等調整額	1,934	476
少数株主利益(△は損失)	△ 4	491
連結中間純利益	2,567	920

## 与信関係費用総額(△は費用)

(信託勘定償却+一般貸倒引当金繰入+与信関係費用)

△ 2,674

△ 3,349

資産・負債の状況(連結)	平成19年度末	平成20年度中間期末
資産の部	1,929,931	1,940,242
うち貸出金	885,388	904,451
うち有価証券	408,516	386,713
負債の部	1,833,934	1,849,816
うち預金	1,213,073	1,197,983
純資産の部	95,997	90,426

連結自己資本比率の状況(第一基準)	平成19年度末	平成20年度中間期末
自己資本比率	11.19%	10.55%
Tier1 比率	7.60%	7.63%
自己資本	122,158	115,902
Tier1	82,937	83,804
総所要自己資本額	87,260	87,831

## モルガン・スタンレーとの 戦略的資本提携について

### 資本提携の内容・目的

平成二十年十月、M U F Gは米国の大手総合金融サービス企業であるモルガン・スタンレーに九十億米ドルを出資しました。出資形態の詳細は左記のとおりです。

この出資は、お互いを戦略的パートナーとして位置づけ、企業金融・投資銀行業務、リテール業務、資産運用業務等の幅広い分野で、グローバルな戦略的提携関係を構築することを目的としています。平成二十一年六月三十日を目処に提携の戦略効果を極大化するた

■約七十八億米ドル相当の転換型優先株式  
(配当利回り10%)

■約十二億米ドル相当の償還型優先株式  
(配当利回り10%)

■M U F Gは出資比率20%を維持する権利を有するほか、出資比率10%以上を維持する限りに  
おいて、取締役一名を派遣する権利を有する。

めの具体的施策を検討します。

ウォール街を代表する名門企業であり、伝統的投資銀行業務や資産運用業務などに強みを有する同社との提携により、世界屈指の総合金融グループをめざすM U F Gの取り組みをさらに強化します。

### モルガン・スタンレーについて

昭和十年(一九三五年)、モルガン商会の証券部門が分離独立して設立(本社は米国ニューヨーク)。世界三十五カ国に六百を超える拠点網、四万人を超える社員を擁し、投資銀行、証券、資産運用、ウェルス・マネジメントなどの業務を提供しています。法人、個人から政府機関、金融機関に至るまでグローバルに幅広い営業基盤を持ち、証券の引受・募集からM & A等のアドバイザー業務、トレーディング等にわたる投資銀行ビジネスにおいて、世界各国でマーケット・リーダーの地位を築いています。日本には、昭和四十五年に進出。以来、国内で事業展開する外資系金融企業を代表する存在となっています。



ダーの地位を築いて  
ます。日本には、昭和四  
十五年に進出。以来、国  
内では事業展開する外資  
系金融企業を代表する  
存在となっています。



## JAバンクとの ATM・CD相互無料開放実施

全国のJAバンクと三菱東京UFJ銀行は、平成二十年十月二十日より、ATM（現金自動預払機）・CD（現金引出機）による現金引き出しの相互無料開放（他行利用手数料の無料化）を実施しました。

これにより、全国のJAバンク・三菱東京UFJ銀行のキャッシュカードをお持ちのお客さまは、双方のATM・CDを利用した現金のお引き出しを、平日日中時間帯（八時四十五分～十八時）は「無料」で、その他の時間帯も「百五十円（消費税込）」でご利用いただけるようになりました。

全国のATM・CD設置台数は、JAバンクが約一万二千台、三菱東京UFJ銀行が約九千台です。このネットワークを活用し、お客さまの利便性を一層高めるとともに、さらに充実したサービスの提供に努めていきます。

## 食農ビジネス支援パッケージ 「アグリのカカラ」取り扱い開始

三菱東京UFJ銀行は、食農ビジネス支援パッケージ「アグリのカカラ」の取り扱いを開始し、異種からの農業ビジネス参入と「食」「農」分野でのビジネス拡大を支援します。

同行は、農業法人や新たに農業ビジネスを始めるお客さまに、「食」「農」関連産業の情報提供や、資金調達面でのアドバイスをを行うとともに、お客さまの販路拡大などをサポートします。また、お客さまのご希望に基づき三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社をご紹介することで、農業参入や事業拡大に向けた支援等を行っています。

平成二十年九月と十月には、高品質かつ安全な食材を生産する農業法人等への営業支援策の一環として、国内の高級ホテル・高級スーパー等を集めた商談会や香港の外食産業等を集めた商談会を行いました。国内外で「食の安全・安心」に対する関心が高まます高まるなか、売り手・買い手双方の皆さまに好評を博しました。



# MUFGレポート 海外拠点紹介第五回

## ユニオン・バンク・オブ・カリフォルニア

米国カリフォルニア州サンフランシスコに本店を置く  
ユニオン・バンク・オブ・カリフォルニアをご紹介します。

MUFGグループの北米事業の要で米国銀行持株会社であるユニオンバンク・コーポレーション（UNBC）。その中核を担っているのが、ユニオン・バンク・オブ・カリフォルニア（UBOC）です。現在、米国西海岸に、三百三十八の支店を構えており、大企業、中堅・中小企業取引から個人取引、信託業務まで、幅広いサービスを提供しています。

UBOCは、平成八年（一九九六年）に、当時の三菱銀行と東京銀行の合併を機に、両行の現地法人「バンク・オブ・カリフォルニア（BOC）」と「ユニオンバンク」とが合併し、誕生しました。UBOCの歴史をひもとくと、そのルーツは、株式会社化した米国西部最古の銀行として、一八六四年、サンフランシスコに設立されたBOCまでさかのぼることができます。また、一八八三年にサンディエゴで設

立したファ

ースト・ナ

ショナル・

バンク・

オブ・サン

ディエゴ、一九一三年設立のユニオンバンク（ロサンゼルス）といった歴史ある銀行の流れもくんでおり、当地日系人社会の歴史的発展とも密接なつながりを併せ持つ商業銀行です。

UBOCでは約一万人が働いていますが、三菱東京UFJ銀行からの派遣行員はわずか三十名程度。常務会のメンバーにも、日本人は、十六人中、CEO（最高経営責任者）一名が名を連ねるにとどまっています。また、社外取締役が過半数を占める取締役会が、常に経営を監督するなど米国流の企業統治を徹底してお



サンフランシスコ大震災の復興シンボルとして親しまれているUBOC本店



BOC博物館所蔵の伊藤博文と大久保利通の署名入り古文書



「北加さくら祭り」の華やかなパレード

り、一般的な日系子会社とは一線を画した存在となつていきます。

カリフォルニアといえば、世界中から移民が集まることで知られていますが、U B O Cでは全従業員の過半数以上を、いわゆるマイノリティー（少数派）が占めており、そのなかから多くのマネージャーを登用しています。地域の多様性を活かした企業姿勢は、『フォーチュン』誌にも数度採り上げられ、米国労働省からも表彰されています。

U B O Cの本店を訪れると、歴史を感じずにはいられないでしょう。同ビルは、明治三十九年（一九〇六年）のサンフランシスコ大震災の後、最初に建てられた商業建造物です。サンフランシスコの歴史的建造物に指定されており、今年、百周年を迎えた現在も、復興のシンボルとして地域の人々に親しまれています。

また、その地下博物館には、明治五年（一八七二年）に岩倉使節団のメンバーと

して訪れた、伊藤博文と大久保利通の署名入りの古文書が展示されています。史実によると、明治政府が金貨鑄造・発行のため、資金調達の一部をU B O Cの前身であるBOCに求めたときのものだそうです。これは、明治政府と米国企業が結んだ初めての契約といわれており、今日にわたるU B O Cと日本との不思議な縁を伝えています。サンフランシスコ日本町では、毎年春に「北加さくら祭り」が開かれ、日本との深いかわりは、今も続いています。

## U N B Cを完全子会社化

三菱東京UFJ銀行は、発行済み普通株式の約65%を保有していたU N B Cの出資比率を引き上げ、100%子会社としました（平成二十年十一月完了）。これにより、三菱東京UFJ銀行とU N B Cの関係は一層強化されるとともに、米国での成長戦略を推し進めることで、同国におけるMUFGグループのプレゼンスをさらに高めていきます。

## 社会とともに

MUFJグループは、社会貢献活動の重点領域として、「地球環境問題への対応」と「次世代社会の担い手育成」に取り組んでいます。その一例をご紹介します。

### 環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」

三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券、および三菱UFJ環境財団は、日本ユネスコ協会連盟と共同で、環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」を平成二十年度に開始しました。

このプロジェクトは、自然環境や文化財を、人類共通の「たからもの」として未来へ引き継いでいくための取り組みです。子どもたちが身近な自然を通じて、環境問題をはじめとする世界規模の課題に関心を寄せ、持続可能な社会に対する感性をはぐくむことができるように「学び」「気づき」「行



「守ろう地球のたからもの」専用ホームページ  
<http://www.unesco-esd.jp/index.html>



動」の観点から活動しています。  
 この一環として、幼児向け環境教育絵本「サクラソウのひみつ」を制作し、ご希望に応じて全国の保育園、幼稚園、小学校に配布しています。また、平成二十年五月と十月に、世界自然遺産「白神山」周辺地域において、MUF Gグループの従業員と地元の方々で植樹活動を行いました。今後も新たな環境教育教材の提供や植樹活動などに取り組んでいきます。

## 「アジア地域の次世代担い手研修」をスタート

MUF Gグループは、\*財団法人オイスカと協働で「アジア地域の次世代担い手研修」を平成二十年度から始めました。

この研修は、アジアの開発途上国の若者たちを福岡市内にある財団法人オイスカの研修所に迎え入れ、一年間、組織経営や環境保全型の有機農業技術を学んでもらおうというものです。MUF Gグループでは、この研修の卒業生たちに、自国のリーダーとして、アジアの発展や環境保全分野での活躍を期待しています。

初年度となる今回は、カンボジア、インド、ミャンマー、モンゴル、パプアニューギニア、フィリピンなどから計十名を迎えて実施しています。



平成二十年十一月には、MUF Gグループの従業員が研修施設を訪問し、研修生とこれまでの研修成果について話し合い、交流を深めました。

今後、本プログラムを一層充実させていきます。

\*財団法人オイスカ：昭和四十四年設立の国際NGO（非営利組織）。主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。

# セミナー開催結果のご報告

平成二十年九月、東京で開催した株主さま向け為替相場セミナーの概要をご報告します。

本セミナーに多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。抽選の結果、百十四名の皆さまにご来場いただきました。

当日は、三菱東京UFJ銀行のディーリングルームを見学の後、同行市場業務部高島チーフアナリストを講師とする為替相場セミナーにご参加いただきました。為替相場セミナーでは、サブプライム問題が為替相場に与える影響や、今後の為替相場の見通しなどを中心に解説。講演終了後の質疑応答も活発に行われ、世界の市場動向や金融政策などに関するさまざまな質問が寄せられました。

アンケート等でいただいたご意見を参考に、今後も株主の皆さまを対象としたセミナーの充実を図ってまいります。

なお、次回は、平成二十一年二月に大阪・名古屋にて株主さま向けセミナーを開催する予定です。詳細につきましては、本冊子十六ページの「開催概要」をご覧ください。



為替相場セミナー



ディーリングルーム見学

## 当日使用した資料(イメージ)



## いただいたご意見のなかから

ディーリングルームを  
直接見学でき、  
面白かった

セミナー全体の  
雰囲気か  
かたかった

セミナーや業務紹介ビデオ  
を通じ、分かりにくい銀行  
業務への理解が深まった

為替相場セミナーは  
分かりやすく勉強になった。  
新聞情報では得られない  
内容で、これから新聞を  
見るのに参考になった

株主優待制度や  
セミナーなどを  
今後とも充実してほしい

ディーリングルームを  
もっとじっくり  
見たかった

今後のセミナーは  
為替だけでなく  
さまざまなテーマで  
行ってほしい

定時株主総会基準日	3月31日
定時株主総会	6月下旬
配当金受領株主確定日	期末配当金3月31日 中間配当金9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞 ただし、決算公告は当社ホームページに掲載 (ホームページアドレス <a href="http://www.mufg.jp/">http://www.mufg.jp/</a> )
上場証券取引所	東京、大阪、名古屋、ニューヨークの各証券取引所
株式事務取扱場所・取次所	
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 <お問い合わせ先・郵便物送付先> 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話: 0120-232-711 (通話料無料) (受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店



## 取締役・監査役（平成20年9月30日現在）

取締役会長 （代表取締役）	たまこし <b>玉越</b>	りょうすけ <b>良介</b>	取締役	やすだ <b>安田</b>	しんたろう <b>新太郎</b>	取締役*	おおきしま <b>大木島</b>	いわお <b>巖</b>
取締役副会長 （代表取締役）	うへはら <b>上原</b>	はるや <b>治也</b>	取締役	ながやす <b>永易</b>	かつのり <b>克典</b>	取締役*	はらだ <b>原田</b>	あきお <b>明夫</b>
取締役社長 （代表取締役）	くろやなぎ <b>畔柳</b>	のぶお <b>信雄</b>	取締役	あきくさ <b>秋草</b>	ふみゆき <b>史幸</b>	取締役*	おおとし <b>大歳</b>	たくま <b>卓麻</b>
取締役副社長 （代表取締役）	おおもり <b>大森</b>	きょうた <b>京太</b>	取締役	たけうち <b>竹内</b>	かずお <b>和男</b>	常勤監査役	まつき <b>松木</b>	はるお <b>春夫</b>
専務取締役 （代表取締役）	さの <b>佐野</b>	さぶろう <b>三郎</b>	取締役	おかうち <b>岡内</b>	きんや <b>欣也</b>	常勤監査役	やすだ <b>安田</b>	しょうた <b>正太</b>
専務取締役 （代表取締役）	みずの <b>水野</b>	としひで <b>俊秀</b>	取締役	ひらの <b>平野</b>	のぶゆき <b>信行</b>	監査役**	いまい <b>今井</b>	たけお <b>健夫</b>
専務取締役 （代表取締役）	さいとう <b>斎藤</b>	ひろし <b>広志</b>	取締役	わち <b>和地</b>	かおる <b>薫</b>	監査役**	たかすか <b>高須賀</b>	つとむ <b>磊</b>
						監査役**	おかもと <b>岡本</b>	くにえ <b>園衛</b>

\* 大木島 巖、原田 明夫、大歳 卓麻の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

\*\* 今井 健夫、高須賀 磊、岡本 園衛の各氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

## 大株主（普通株式 平成20年9月30日現在）

	持株数(株)	持株比率(%)
1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	559,972,830	5.12
2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	434,607,210	3.97
3 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	396,345,570	3.62
4 ヒーロー・アンド・カンパニー (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	287,059,666	2.62
5 日本生命保険相互会社	285,603,153	2.61
6 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (明治安田生命保険相互会社・退職給付信託口)	175,000,000	1.60
7 トヨタ自動車株式会社	149,263,153	1.36
8 明治安田生命保険相互会社	139,185,671	1.27
9 ステートストリートバンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行兜町証券決済業務室)	125,144,481	1.14
10 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (三菱重工工業株式会社口・退職給付信託口)	118,740,000	1.08
合計	2,670,921,734	24.42
発行済株式総数	10,933,679,680	100.00

(注) 1. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

2. 上記のほか、当社が保有している普通株式の自己株式301,018,508株があります。

3. ヒーロー・アンド・カンパニーは、ADR(米国預託証券)発行のために預託された株式の名義人です。

# MUFG株主セミナー 開催のお知らせ

日頃ご支援いただいております株主の皆さまを対象に、第二回「株主セミナー」を大阪・名古屋で開催いたします。皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

## 開催概要

### 開催日時・場所

**[大阪]** 平成21年2月2日(月) 13:30~15:00頃  
三菱東京UFJ銀行内会議室(大阪市内)

**[名古屋]** 平成21年2月5日(木) 14:00~15:30頃  
三菱東京UFJ銀行内会議室(名古屋市内)

### 内容

#### 講演テーマ

「内外の金融・経済を展望する」(仮題)

#### 講師

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社  
調査部長 五十嵐 敬喜氏



### 募集対象者

平成20年9月末時点で当社株式を100株以上お持ちの株主さま  
(ご同伴者1名さままで可)

### 募集人数

各100名さま(ご同伴者含む)

## 応募要領

応募方法 同封の「MUFG株主セミナーご参加申込書」に必要事項をご記入の上、ご投函ください。

**締め切り 平成20年12月31日(水)消印有効**

### ご記入要領

1. ご希望の開催日・場所をご選択ください(いずれか一方をお選びください)。
2. 株主さまのご住所、お名前、株主番号(「配当金領収証」または「配当金計算書」の住所氏名の下段8桁の番号)をご記入ください。
3. ご同伴者がある場合、そのご住所、お名前をご記入ください。
4. 個人情報保護シールをはがし、折り曲げてしっかりと貼り付けてご投函ください。

応募多数の場合、抽選方式を採用いたしますのであらかじめご了承ください。  
厳正な抽選の上、当選された株主さまには平成21年1月中旬頃にご招待状をお送りいたします。

(ご注意)

1. 当日の受付時刻および集合場所等の詳細につきましては、当選された株主さまに別途ご案内いたします。
2. 参加費は無料ですが、開催場所までの往復の交通費は各自でご負担いただきます。
3. 応募時に必要事項の記入漏れがあった場合には、無効となる可能性がございます。
4. やむを得ない理由で中止や内容変更となる場合がございます。

お問い合わせ先: 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ 株主セミナー係  
電話: 03(3240)8111(代)

## 「ご優待サービスご利用ガイド 2009」の送付について

平成 20 年 9 月 30 日時点の当社株主名簿（または実質株主名簿）に、100 株以上お持ちと記載された株主の皆さまを対象に、「ご優待サービスご利用ガイド 2009」を、12 月 16 日以降、年末までにお届けする予定です。

「ご優待サービスご利用ガイド 2009」には、「オリジナルグッズお申し込み専用ハガキ」「ご優待クーポン券\*」が同封されていますので、ご確認をお願いいたします。

\*「ご優待クーポン券」は 500 株以上の株主さまを対象にお送りします。

優待制度の詳細につきましては、当社ホームページでもご紹介していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.mufg.jp/investors/programs/>



法人株主さま用



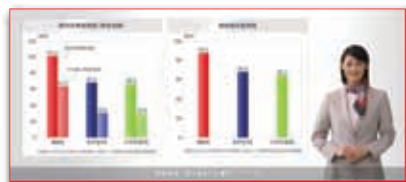
個人株主さま用

## MUFG のホームページに、会社紹介コンテンツを新たに掲載しました

このコンテンツでは、Person in Presentation という新しい技術を活用し、ホームページや個人投資家セミナーなどで株主や投資家の皆さまからよくいただくご質問に、Q&A 方式で回答しています。

ぜひ一度ご覧ください。

[http://www.mufg.jp/investors/about\\_more\\_mufg/](http://www.mufg.jp/investors/about_more_mufg/)



## グループメッセージについて

MUFGグループは「Quality for You」を  
グループメッセージとして、  
お客さまとのさまざまな  
コミュニケーションの場で展開していきます。

# Quality for You

このメッセージには、  
「『質』の高いサービスのご提供を通じて、  
お客さま一人ひとりの生活や一社一社の事業の  
『質』の向上をお手伝いしたい。  
そして、こうした活動を通じて  
地域・社会の発展に貢献していきたい」  
という私たちの想いを込めています。

### 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1  
電話03(3240)8111(代表)  
URL:<http://www.mufig.jp/>

株式に関するお手続きについてご不明な点などがございましたら、  
以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。  
**三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター**  
Tel:0120-232-711(通話料無料)  
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)